

アドミッション・ポリシーにおける「求める学生像」の分析

樽松 理樹, 天野 哲彦 (岩手県立大学)

本稿では、大学ポートレートから入手したアドミッション・ポリシー (AP) より、人手で抽出した「求める学生像」の分析結果を報告する。ガイドラインに沿った AP がある一方で、カリキュラム・ポリシーやディプロマ・ポリシーに記載すべき内容を記述している AP もある。これは AP 作成時期の影響が大きいと考えられる。求める学生像に関連深いと考えられる語句の出現頻度分析の結果、「意欲」と「学力」を求める学生像の共通要素として見いだした。また「学力の 3 要素」を「知識」「能力」「主体性」「協働」の 4 項目に分け、関連すると想定した語彙の出現頻度に基づき記載率を調査した結果、「主体性」は 96%、「能力」は 77%、「知識」は 66%とこれらの項目は半数を上回った。一方、「協働」については「医・歯」では 78%に達したが、全体としては 45%と他の項目よりも記載率が低い。本項目はガイドラインに明記されていることから、今後は記載率が高まると予想される。

キーワード：アドミッション・ポリシー、出現頻度、能力語彙、学力の 3 要素

1 はじめに

現在の大学入学者選抜試験 (以後、大学入試) においてアドミッション・ポリシー (以後、AP) は重要な要素である。平成 28 年に公表された、『「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン』(中央教育審議会大学分科会大学教育部会, 2016:6) (以後、ガイドライン) においては、AP の留意事項として「ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえるとともに、「学力の 3 要素」を念頭に置き、入学前にどのような多様な能力をどのようにして身に付けてきた学生を求めているか、入学後にどのような能力をどのようにして身に付けられる学生を求めているかなど、多様な学生を評価できるような入学者選抜の在り方について、できる限り具体的に示すこと。また、必要に応じ、入学前に学習しておくことが期待される内容についても示すこと」が示されている。なお「学力の 3 要素」とは(1)知識・技能、(2)思考力・判断力・表現力等の能力、(3)主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度の 3 つを意味する。さらに、令和元年度の『学校教育法施行規則等の一部を改正する省令等の施行等について (通知)』(文部科学省, 2019) により、法令上、各大学には AP の公表が義務づけられている。

上記のような動向もあり、AP の分析が取り組まれるようになってきている。齋藤 (齋藤, 2013) は経済学部の AP を対象にテキストマイニングによって分

析しており、さらに 3 つのポリシーの連携に関する分析 (齋藤, 2019) も試みている。根岸 (根岸, 2013) は教員養成系学部の AP のうち「求める学生像」を、医学部や教育委員会が示している「求める教員像」と比較分析している。佐野 (佐野, 2013) は、大学の Web ページから収集した AP を分析している。また大学ポートレート (大学ポートレートセンター, 2015) といったポータルサイトも構築され、データを得やすい状況になってきている。著者ら (樽松・天野, 2019) はこのサイトの情報を用い、学部系統・設置者ごとの傾向について分析を試みている。

このような AP の分析において、ガイドラインに示された「学力の 3 要素」に着目することは有意義であると考えられる。しかし、ガイドライン公開時期との関係もあり、このような分析事例は少ない。今後の AP の在り方を考える上でもこの点からの分析は重要であると考えられる。

以上の背景から本研究では、先行研究に引き続き、大学ポートレートから入手可能な AP の中から「学力の 3 要素」と関連深い「求める学生像」に着目し、テキストマイニング技術を用いて分析する。

2 データおよび分析方法

2.1 対象とするデータ

AP には、1 章であげたガイドラインによれば「入学者選抜方法」と「求める学生像」の記載がある。本研究では「学力の 3 要素」と関連深いと考えられる「求める学生像」に焦点を絞って分析を行う。そのため、先行研究において、2018 年 9 月から 11 月に大学が

ートレートの大学検索より入手した国公立大の AP から人手によって「求める学生像」の記載がある部分を抽出した。AP は、学部単位、学科単位での記載があるが、それぞれ独立したものとし、それぞれ 1 件のデータとする。また、学部・学科については、『平成 30 年度国公立大学入学者選抜学部系統別志願状況』（文部科学省，2018）に示された学部系統を付与する。上記文献に記載がない場合は、学部名称が類似している他大学の学部と同じ学部系統を付与する。学部系統としては、「人文・社会、理工、農・水産、医・歯、薬・看護、教員養成、その他」があるが、以後、人文・社会は人社、農・水産は農水、薬・看護は薬看、教員養成は教員と記載する。表 1 に今回分析対象とした AP の学部系統・設置者別の件数を示す。

表 1 系統・設置者別データ数

設置者	学部系統							合計
	人社	理工	農水	医歯	薬看	教員	その他	
国立大	119	168	60	98	35	98	37	615
公立大	68	37	21	9	57	—	40	232
合計	187	205	81	107	92	98	77	847

2.2 分析方法

表 1 で示した学部系統ごとに次に示す分析を行う。「その他」には、福祉系、芸術系など多岐にわたる学部が含まれるが、比較対象として、同様に扱う。

AP に出現する語句のうち、「学力の 3 要素」と関連深いと考えられる能力や資質を表すと考えられる語句を能力語彙として捉え、その出現頻度を比較する。能力語彙は、次の方法で抽出する。

はじめに、各 AP から「一般名詞」「サ変名詞」「固有名詞」および「名詞に接続する助詞」のいずれかが 1 つ以上連続している部分を語彙として抽出する。語彙の抽出については、形態素解析を用いる。形態素解析とは、文を言語として意味を持つ最小単位である形態素と呼ばれる単位、基本的には品詞単位に分割するものである。例えば「基礎学力」は「一般名詞：基礎」と「一般名詞：学力」に分割される。しかし、本研究では連続する一般名詞は 1 つの語句として扱うため「基礎学力」として抽出する。これにより複合語への対応が可能となる。

以上の方法で得られた語句のうち、「末尾が力、性、心、感、意欲のいずれかで終わる語句」および「意思、意志、意欲、意識」を能力語彙とする。ただし「中心」のように能力や資質とは関係ないと考えら

れる語彙や「力」のような一文字の語彙は人手で削除する。なお本研究では、形態素解析には、先行研究同様にプログラム言語 Java のライブラリ lucenegosen-4.0.0-ipadic を用い、各種分析には独自に開発したプログラムを用いた。

3 分析結果

3.1 求める学生像の記載方法

求める学生像の記載箇所の手による抽出過程において、その記載方法についても類別した。はじめに、その過程で得られた内容を示す。

同一大学の場合、学部学科で表記を統一していることが多いが、統一されていない場合もある。理由の 1 つとしては学部改組などによる作成時期の違いが考えられる。

求める学生像を記載していることを示す導入表現の出現傾向を表 2 に示す。なお、「人を求め」のような表現においては、「人を広く求め」というような表現も含む。また、「求める」以外の表現として、「学生を受け入れる」「受験を期待」「学生を歓迎」というような表現も少数ではあるが、見受けられた。

表 2 表記の出現傾向

表記パターン	国立	公立	表記パターン	国立	公立
求める学生	162	48	人物を求め	6	2
学生を求め	108	100	求める入学者	13	0
求める人材	78	8	入学者に求め	26	6
人材を求め	42	6	人を求め	135	56
求める人物	33	2	者を求め	33	5

表 2 で示したように、AP の記載においては、呼称として「学生」を用いることが多い。これは、学校教育法において高等教育を受けている者への呼称が「学生」であること、また、ガイドラインにおいて「学生」という語が用いられているためと考えられる。またガイドラインにおいては、「入学者」という表現も用いられているためか、入学者を用いる場合も多い。

また、AP における「求める学生像」に表現の揺らぎがある。1 つの理由としては、今回利用した AP が大学ポートレートから抽出したものであり、作成年度が統一されていない点が挙げられる。特に、学力の 3 要素に言及している AP はガイドライン公開後に作成されたと考えられる。

一方、カリキュラム・ポリシーに記載する教育課程やディプロマ・ポリシーに記載する育成する人材像

を記載または参照しているAPも見受けられた。また、選抜区分と関連付け、選抜区分ごとに求める学生像を示すAPもあった。これらのAPは作成時期がガイド

ラインなどの公開以前と考えられる。今後ガイドラインに従うことで、是正されていくと予想される。

表3 能力語彙の出現傾向

能力語彙	人社	理工	農水	医歯	薬看	教員	その他	総数
AP数	187	205	81	107	92	98	77	878
関心	128	86	45	60	41	66	60	486
意欲	90	121	46	56	39	48	69	469
基礎学力	33	62	23	45	33	22	27	245
能力	59	42	27	25	17	28	21	219
興味	23	81	25	23	13	19	21	205
思考力	31	26	16	19	7	17	20	136
学力	29	25	6	15	10	23	16	124
コミュニケーション能力	21	18	8	24	11	20	16	118
表現力	23	25	12	17	7	17	14	115
判断力	17	20	13	19	6	12	9	96
協調性	8	14	2	34	9	12	4	83
人間性	5	5	1	42	13	11	3	80
意志	3	21	0	11	6	21	10	72
主体性	14	14	10	8	5	8	6	65
論理的思考力	15	18	3	7	5	8	7	63
学習意欲	13	4	4	18	7	7	2	55
探究心	5	15	4	11	12	5	1	53
努力	7	12	1	6	12	8	7	53
意識	17	8	4	6	1	6	6	48
好奇心	8	23	1	7	2	1	4	46
行動力	5	13	2	6	4	5	7	42
目的意識	3	5	10	18	4	0	2	42
協力	5	7	8	8	4	1	4	37
適性	6	7	5	3	6	0	6	33
探求心	4	7	4	4	2	1	9	31
感性	5	4	2	5	3	3	8	30
知的好奇心	6	12	2	1	3	2	4	30
理解力	8	9	2	5	1	2	1	28
使命感	1	0	1	10	7	6	1	26
解決能力	8	2	3	4	2	0	6	25
基礎的学力	5	4	2	2	1	5	5	24
責任感	1	3	0	11	5	1	2	23
コミュニケーション力	5	8	1	0	1	3	4	22
創造力	3	3	7	2	2	2	2	21
意思	5	1	4	2	3	1	4	20
語学力	4	6	1	3	3	1	2	20
柔軟性	1	5	0	9	3	1	0	19
創造性	1	7	0	4	3	0	4	19
読解力	11	1	3	1	0	0	2	18
共感	2	4	0	6	0	0	5	17
科学的探究心	0	1	0	9	6	0	0	16
個性	6	2	0	0	4	0	4	16
向上心	3	5	0	3	1	2	1	15
実践力	0	5	1	3	0	5	1	15
勉学意欲	2	5	2	1	0	0	5	15
応用力	0	6	1	5	0	0	0	12
社会性	1	3	0	6	1	0	1	12
発想力	3	5	1	0	0	0	3	12
論理的思考能力	2	3	1	5	1	0	0	12
想像力	5	2	0	2	0	0	1	10
文章読解力	5	0	0	1	0	0	3	9
運用能力	6	0	0	0	0	0	2	8
独創性	0	6	0	1	1	0	0	8
指導力	0	0	0	1	0	6	0	7

3.2 能力語彙の出現傾向

表 3 に抽出した能力語彙の出現傾向を示す。表 3 において総数は出現した AP の総数を示し、この値の降順に並べている。各学部系統の値は、学部系統内の AP における該当能力語彙の出現 AP 数を、背面の棒グラフはその割合を示す。また太字の数値は学部系統内の 40%以上で出現していることを意味する。

総数で 50%を超えている能力語彙は「関心」「意欲」のみであった。理由としては、表現の多様性が考えられる。この点を考慮した分析結果については、3.3 で述べる。「関心」「意欲」は各学部系統においては 40%を超えている。また「意欲」については「学習意欲」「勉学意欲」という表現も見受けられる。

次いで頻度が大きいものは「基礎学力」であり、特に「医歯」が 42%と比較的高い。さらに「学力」「基礎的学力」という表現も見受けられ、これらを加えれば、系統の平均が 37%に達する。以上のようなことから、「意欲」「関心」「基礎学力」は求める学生像の共通要素であると推察される。

「学力」以外に語尾に力が付く語彙としては、「能力」の総数が多い。これは「○○できる能力」「○○する能力」という表現が多くあるためと考える。より具体的な語彙としては、「思考力」「コミュニケーション能力」「表現力」「判断力」が多い。これらの語句はガイドラインなどにも頻出するため、上位に来ていると考えられる。また「コミュニケーション能力」は「コミュニケーション力」の 4 倍以上、同じく「論理的思考力」は「論理的思考能力」の 4 倍以上の頻度になっている。共に出現頻度の多い語句はガイドラインや学習指導要領、官庁等の報告書に見受けられる点から、その表現に準拠している可能性が高い。

学部系統で比較すると、「医歯」が他の系統とやや異なる。他の系統より「協調性」「人間性」「社会性」が高い。この点から、「医歯」は、対人関係能力を学生に求めていることが分かる。「理工」は「興味」「好奇心」が他の系統より多い。これは多様なことに目を向ける必要がある専門領域の特徴を端的に示していると考えられる。また「人社」では「読解力」「文書理解力」が他の系統より多い。これは入学後の学びとの関係がより深いためと考えられる。

3.3 学力の 3 要素(4 項目)の記述傾向

これまで述べてきたように能力語彙の出現傾向分析では、「基礎学力」「基礎的学力」「基礎的な学力」という表現を別々に扱うこととなり、全体像の把握が難しい。そのため、能力語彙で得られた知見をもとに、

1 章で示したガイドライン中で述べられている学力の 3 要素に関する記載の有無について分析する。なお、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」は、「主体性」と「協働」に分けて分析する。以後、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」を加えて学力の 3 要素を 4 項目として定義し、それぞれ「知識」「能力」「主体性」「協働」と略記する。

分析方法としては、各項目に関連するキーワードを独自に設定し、そのキーワードが 1 つでも出現した場合、記載があるとみなす。各要素とそれを特定するために利用したキーワードを表 4 に示す。これらのキーワードは抽出した能力語彙および、関連すると考える語彙・表現を抽出した結果をもとに決定した。

表 4 学力の 3 要素(4 項目)ごとのキーワード

項目	キーワード
知識	知識, 技能, 基礎学力, 基礎的学力, 基礎的な学力, 基本学力, 基本的な学力, 基本的な学習, スキル, 基礎知識, 基本的知識, 基本的な知識, 基本知識, 教科, 知見, リテラシー
能力	思考, 判断, 表現, 能力, プレゼンテーション, 理解, 読解, 読み解, 論理, 発見, 応用, 活用, 運用, 分析, 記述, 発信, 発表, 明確に示
主体性	主体性, 主体的, 情熱, 意欲, 関心, 目的, 意識, 積極, 前向き, 行動, チャレンジ, 好奇心, 探究, 探求, 興味, 夢, 熱意, 意志, 一貫, 持続, 続ける, ねばり強, 視野, 倫理, 責任, 貢献, 向学
協働	コミュニケーション, 共同, 協同, 協働, 協調性, 人間性, 交流, 共感, 感受性, 価値観

表 5 学力の 3 要素(4 項目)の記載率

全系統 総数:847	主体性・有		主体性・無		行計	
	協働・有	協働・無	協働・有	協働・無		
知識・有	能力・有	0.30	0.23	0.00	0.01	0.54
	能力・無	0.03	0.09	0.00	0.00	0.12
知識・無	能力・有	0.02	0.08	0.00	0.01	0.11
	能力・無	0.08	0.13	0.01	0.01	0.23
列計		0.43	0.53	0.01	0.03	1.00

分析結果として、学力の 3 要素(4 項目)の記載の有無の組み合わせパターンに記載率をまとめたものを表 5 に示す。項目の後にある「・有」は AP に項目に関する記載があることを、「・無」は記載がないことをそれぞれ示す。表はクロス表の形をとっており、例えば表 5 左上の 0.30 は、「知識・有, 能力・有, 主体性・有, 協働・有」の AP が、全体の 30%を占めることを意味する。また同じ行の行計は、「知識・有,

能力・有」の AP が占める割合が 54%，同じ列の列計は、「主体性・有，協働・有」の AP が占める割合が 43%となることを意味する。

表 5 に示すように、学力の 3 要素のうち「知識」と「能力」では「知識」の記載率が 66%であるのに対し、「能力」の記載率は 77%と 11 ポイント上回っている。また両方記載している AP は 54%に達している。このことから「知識」「能力」については、「知識」は「能力」に含まれる、あるいは「能力」の前提として捉える傾向があると考えられる。

「主体性」の記載率は 96%と高い。これは「関心」「意欲」などの出現頻度の高い語句がキーワードに含まれることから妥当といえる。見方を変えれば、今まで「主体性」という語の使用頻度が低いもの、「主体性」は、学生に求めるものの必須要素という共通認識があると言える。

一方、「協働」の記載率は、46%に留まっている。後述するが系統間でのばらつきも大きい。この点から、今までは系統毎の特性に影響を受ける項目であったと考えられる。今後は、ガイドラインに明記されたこともあり、記載率の増加が予想される。

学力の 3 要素(4 項目)間の関係を見ると、「知識」と「主体性」の併記は 65%，「能力」と「主体性」の併記は 74%，「知識」と「能力」の併記は 54%と半数を超えている。このことから「学力の 3 要素」のうち、「能力」「知識」「主体性」は求める学生像の共通要素として AP に浸透していると言える。

一方「協働」については、「知識」との併記は 34%，「能力」との併記は 40%，「主体性」との併記は 43%と低くなる。また「協働」があり「知識」がない AP は 12%，「協働」があり「能力」がない AP は 6%，「協働」があり「主体性」がない AP は 3%である。このことから「協働」は「主体性」と併記される傾向が高い。これは「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」という文言の影響や「協働」の重要性が浸透していないことが理由として考えられる。

学部系統における学力の 3 要素(4 項目)の記載の有無の組み合わせパターンに記載率を表 6 に示す。

「人社」は、3 要素(4 項目)をすべて記載している AP の割合が 28%と最も多い。4 項目毎の AP 記載率は「主体性」94%「能力」86%「知識」65%「協働」44%である。

「理工」は、3 要素(4 項目)のうち、「協働」のみ記載がない AP の割合が 26%と最も高い。ただし、すべて記載の AP も 22%を占めている。4 項目毎の AP

記載率は「主体性」99%「能力」71%「知識」60%

表 6 学力の 3 要素(4 項目)の出現傾向

人社 総数:187		主体性・有		主体性・無		行計
		協働・有	協働・無	協働・有	協働・無	
知識・有	能力・有	0.28	0.25	0.02	0.01	0.56
	能力・無	0.01	0.08	0.00	0.00	0.09
知識・無	能力・有	0.01	0.03	0.01	0.00	0.05
	能力・無	0.13	0.15	0.02	0.00	0.30
列計		0.43	0.51	0.05	0.01	1.00

理工 総数:205		主体性・有		主体性・無		行計
		協働・有	協働・無	協働・有	協働・無	
知識・有	能力・有	0.22	0.26	0.01	0.00	0.49
	能力・無	0.01	0.10	0.00	0.00	0.11
知識・無	能力・有	0.02	0.16	0.00	0.00	0.18
	能力・無	0.05	0.17	0.00	0.00	0.22
列計		0.30	0.69	0.01	0.00	1.00

農水 総数:81		主体性・有		主体性・無		行計
		協働・有	協働・無	協働・有	協働・無	
知識・有	能力・有	0.28	0.27	0.00	0.03	0.58
	能力・無	0.00	0.09	0.00	0.00	0.09
知識・無	能力・有	0.00	0.11	0.00	0.00	0.11
	能力・無	0.02	0.20	0.00	0.00	0.22
列計		0.30	0.67	0.00	0.03	1.00

医歯 総数:107		主体性・有		主体性・無		行計
		協働・有	協働・無	協働・有	協働・無	
知識・有	能力・有	0.51	0.08	0.00	0.00	0.59
	能力・無	0.08	0.04	0.00	0.00	0.12
知識・無	能力・有	0.06	0.03	0.01	0.01	0.11
	能力・無	0.11	0.07	0.00	0.00	0.18
列計		0.76	0.22	0.01	0.01	1.00

薬看 総数:92		主体性・有		主体性・無		行計
		協働・有	協働・無	協働・有	協働・無	
知識・有	能力・有	0.33	0.23	0.00	0.00	0.56
	能力・無	0.00	0.05	0.02	0.00	0.07
知識・無	能力・有	0.04	0.10	0.04	0.00	0.18
	能力・無	0.08	0.10	0.00	0.01	0.19
列計		0.45	0.48	0.06	0.01	1.00

教員 総数:98		主体性・有		主体性・無		行計
		協働・有	協働・無	協働・有	協働・無	
知識・有	能力・有	0.33	0.21	0.01	0.00	0.55
	能力・無	0.11	0.15	0.00	0.00	0.26
知識・無	能力・有	0.01	0.03	0.00	0.00	0.04
	能力・無	0.04	0.09	0.00	0.02	0.15
列計		0.49	0.48	0.01	0.02	1.00

その他 総数:77		主体性・有		主体性・無		行計
		協働・有	協働・無	協働・有	協働・無	
知識・有	能力・有	0.26	0.27	0.00	0.00	0.53
	能力・無	0.03	0.09	0.00	0.00	0.12
知識・無	能力・有	0.03	0.10	0.00	0.00	0.13
	能力・無	0.13	0.08	0.01	0.00	0.22
列計		0.45	0.54	0.01	0.00	1.00

「協働」30%である。「主体性」の記載率が高いのに対し「協働」の記載率は学部系統中、最も低い。

「農水」は、3要素(4項目)をすべて記載しているAPの割合が28%と最も多いが「協働」のみ記載無しも27%ある。4項目毎の記載率は「主体性」97%「能力」80%「知識」67%「協働」33%である。

「医歯」は、3要素(4項目)をすべて記載しているAPの割合が51%と最も多い。4項目毎の記載率は「主体性」98%「能力」78%「協働」78%「知識」71%であり、全項目記載のAPの割合も高い。

「薬看」は、3要素(4項目)をすべて記載しているAPの割合が33%と最も多い。4項目毎の記載率は「主体性」93%「能力」75%「知識」63%「協働」46%である。一方で、3要素すべてに触れていないAPの割合が4%と他の系統より高い。「協働」に関しては、学部名等に「看護」を含むAPでは記載する割合は52%と系統全体よりもやや高いことから、「薬学系」は研究志向が強いと推察される。また「知識」より「能力」を記載する傾向がある。

「教員」は、3要素(4項目)をすべて記載しているAPの割合が33%と最も多い。4項目毎の記載率は「主体性」97%「知識」81%「能力」70%「協働」51%である。「能力」より「知識」を記載する傾向がある。これは教育課程において、「知識」に位置付けた教科名が明記されるためと考えられる。

「その他」は、3要素(4項目)のうち「協働」のみ記載無しが27%と最も多いが、すべて記載のAPも26%と拮抗している。4項目毎の記載率は「主体性」99%「能力」75%「知識」65%「協働」45%と「知識」より「能力」を記載する傾向がある。

各学部系統を「学力の3要素」から見れば、「知識」より「能力」の記載率が高く、その要因としては「基礎学力」のように「能力」が抽象的で「知識」を包括しているためと考えられる。「主体性」に関する語彙の出現頻度は高く、学びに向かう主体性、学ぶ意欲が根本的に大切という点で妥当といえる。「協働」は、全体的に低いが、「医歯」「教員」「看護」など人と積極的に関わる内容が多い学部系統では高く、卒業後の進路と関係深いためと考えられる。

4 おわりに

本稿では、大学ポートレートから入手したAPより、人手で抽出した「求める学生像」について分析した。求める学生像に関連深いと考えられる語彙の出現頻度分析により「関心」「意欲」「基礎学力」が求める学生像の共通項として見いだされた。「学力の3要

素」については、96%のAPで「主体性」が示されている。一方「主体性」と並び立つ「協働」の記載率は46%であるが、今後は浸透が進み、記載率が向上することが予想される。

今後の研究課題として、表現の多様性や系統分類を見直し、最新のAPについて分析することに取り組む。また、今回の分析結果と比較することで、APの変遷をとらえることや「入学者選抜方法」との関係分析にも取り組む。

謝辞

本研究においてAP収集に協力していただいた、本学臨時職員の方に謝意を表す。

参考文献

- 文部科学省(2019)．学校教育法施行規則等の一部を改正する省令等の施行等について(通知)
https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/_icsFiles/afiel_dfile/2019/09/10/1420974_001.pdf(2020年8月25日アクセス)
- 中央教育審議会大学分科会大学教育部会、「卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」、「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン、平成28年3月31日
- 大学ポートレートセンター(2015)．大学ポートレート
<https://portraits.niad.ac.jp/>(2019年3月8日アクセス)
- 齋藤朗宏(2013)．「各大学経済学部におけるアドミッション・ポリシーのテキストマイニングによる分析」『大学入試研究ジャーナル』23, 171-178.
- 齋藤朗宏(2019)．「3つのポリシーの連携に関する分析」『令和元年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会研究発表予稿集I』, 198-201.
- 樽松理樹・天野哲彦(2019)．「テキストマイニング技術を用いたアドミッション・ポリシーの分析」『令和元年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会研究発表予稿集I』, 202-207.
- 佐野秀行(2013)．アドミッション・ポリシーのテキスト分析：設置形態、規模、学部系統別に見た大学の公開情報 日本教育学会大会発表要旨集録、(65)
- 根岸千悠(2013)．国立大学教員養成系学部におけるアドミッション・ポリシーの特徴-「求める学生像」の分類を通して- 千葉大学大学院人文社会科学部研究科 研究プロジェクト報告書第262集『社会とつながる学校教育に関する研究』50-57.
- 文部科学省(2018)．平成30年度国公立大学入学者選抜学部系統別志願状況 http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/30/02/_icsFiles/afiel_dfile/2018/02/15/1401481_01r_1.pdf(2020年8月25日アクセス)